

シャント発声における基本的ケア

基本的なケア

プロヴォックスを上手に使うためには、まず基本的なケアをマスターすることが大切です。シャント発声はこの基本的なケアができればほぼ成功です。この基本的なケアをマスターして快適なシャント発声をめざしましょう。

これからお話するのは

1. アドヒーシブのはがし方
2. 気管孔ケア
3. ブラシ掛け
4. アドヒーシブのはりつけ方

の順でお話していきます。

ケア製品用語

基本的なケアをお話する前に、まずケア製品の用語に英語や造語？が使用されているので、用語の説明から始めたいと思います。

リムーブは取り外すという意味があり、アドヒーシブをはがす時に使用します。

スキンプレップは皮膚の前準備のためという意味で使われています。

皮膚の表面に保護膜を作り、粘着性を高めるために使います。

HMEカセットは Heat:加温 Moisture:加湿 Exchanger:交換カセットで

ノーマル:普通と、ハイフロー:交流量の2種類があります。

HMEカセットの中にスポンジが見えますが、きめの粗いのがハイフロー、細かいのがノーマルです。

アドヒーシブは粘着性のとか、接着の意味があります。このアドヒーシブには形状の違いで8種類ありますが、主に使われているのは、

フレキシダームとオプチダームのオーバル:楕円型の2種類です。

1、アドヒーシブのはがし方

アドヒーシブはていねいにゆっくりとはがします。気管口周囲の皮膚を傷つけないようにしてください。慣れてくると、バリッとをはがす方が多いのですが、プロヴォックスを長く上手に使うために、是非優しくはがしてあげてください。

①リムーブ剤をアドヒーシブの全面に塗ります。すべてのアドヒーシブではありませんが、ほとんどの方はフレキシダームを使っていることを前提でお話しています。このフレキシダームの表面には小さい孔が開いており、こうすることで、リムーブ剤はアドヒーシブの表面からもしみ込んでいきます。

②次にアドヒーシブの端を少しめくってリムーブ剤をいれるようにして、ていねいにはがしていきます。



③このリムーブ剤は油性なので、このまま貼るとアドヒーシブの粘着性を弱めますから、この後必ずウェットティシューなどでふき取ってください。

2、気管孔のケア

①吸引機で痰を取り除いている方も多いと思いますが、大きないい咳ができるようになると、上手に痰を喀出できるようになります。

②気管孔の周りにつくってかたまってしまった痰（痂皮・カヒ）などはピンセットで取り除きます。



3、ブラシ掛け

① ボイスプロテゼにプロヴォックスブラシを挿入しクリーニングします。この時に大切なのはボイスプロテゼのバルブが開くまで挿入することです。ブラシがバルブに当たることによって、バルブの開閉部分についたカンジダや汚れなどを効率よく取り除くことができます。ボイスプロテゼの寿命はこのバルブの開閉によって決まります。バルブがうまく作動しないと漏れが生じボイスプロテゼの交換が必要となりますので、食事の後や発声できにくいと感じた時はブラシ掛けすることをおすすめします。プロボックスブラシの先端には丸い突起があって、食道の後壁にあたっても傷つかないようにになっています。

②そしてブラシを前後に動かします。

③次にブラシを時計回りでも反時計回りでもどちらでもかまわないので、1方向にまわし、取り出します。ブラシについた痰などをティッシュペーパーでふきとります。

④ブラシについてくる汚れがひどい場合はこの操作を何度かくりかえします。

4、アドヒーシブの貼りつけ方

①アドヒーシブを貼り付ける前に、皮膚を保護するためと気管孔の気密性をより高めるために、スキンプレップを気管孔の周囲に塗布します。この時、スキンプレップは揮発性で鼻やのどに刺激があるので、塗布前に深呼吸をし、息を止めてから塗布します。息を止めている間に手で軽く煽いで乾かし、この間は手早く行います。

②皮膚が弱い方はオプティダームという肌色のアドヒーシブを使います。

これは親水性なので、シャワーエイドとは一緒に使ってはいけません。

しばらくすると皮膚も慣れてきてフレクシダームを貼れるようになる方が多いです。フレクシダームを貼ることができれば、シャワーを浴びることが可能になるので、最低限ここまでもっていけるように努力するのがベストだと思っています。

このオプティダームは貼りつける前に両面を手で擦って熱を伝えると貼りつきやすくなるので、何度も擦って柔らかくさせます。貼りつけた後も何度も指でなでるようにして粘着性を高めてください。

③気管孔の下側のふちとアドヒーシブの穴の下側が重なるように貼りつけます。貼りつけてからすぐに発声しないようにする方がはがれにくいようです。

スキンプレップ塗布後3～4分よく乾燥させると、アドヒーシブの持ちはよくなります。乾燥させると、この写真のようにピカッと光ります。

繰り返しますと、



写真④

- リムーブ剤を使ってアドヒーシブをやさしく剥がします。
- 気管孔の周囲をウェットティッシュでふき取ります。
(リムーブ剤は油性なので、油分をふき取るため)
- スキンプレップを塗って3～4分乾燥させます。
- アドヒーシブを貼り付けます。



写真⑤



写真⑥

今まではよく声が出ていたのに、徐々に出にくくなったなどの場合は、ボイスプロテーゼのサイズが合っていない可能性があります。術後、粘膜の腫れがひいてくると、気管食道壁が短くなり、ボイスプロテーゼが長すぎるということになります。こういう場合は主治医に相談して、サイズの確認をしてもらってください。ボイスプロテーゼのサイズが長すぎる場合には水が漏れる可能性もありますので、どのサイズのボイスプロテーゼを使っていることも大切です。これらがマスターできましたら、悠声会の上級者のアドバイスを聞いてください。素晴らしい耳より情報が盛りだくさんです！